☆青空の子どもたち☆　　横浜市立中丸小学校

学校だより　６月号　令和５年５月３１日

青空の子どもたちのひたむきな姿

副校長　西口　公恵

今年度４月に着任いたしました、副校長の西口 公恵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

新年度が始まり２か月が経ちました。３年間の制限された生活から、少しずつ元の学校生活に戻りつつある中、子どもたちは、新しいクラスの友達と毎日元気いっぱいに過ごしています。中丸小に来てまだ２か月ですが、子どもたちの素晴らしい姿をたくさん見つけました。

まず、４月初旬に行われた１年生を迎える会です。これまでの３年間はテレビ放送でしたが、久しぶりに全校で集い、迎える会を開催することができました。私がまず驚いたのは、司会進行をしていた運営委員会の６年生の子どもたちです。大変落ち着いた態度で堂々と会を進めていました。抑揚をつけながら一言一言に心を込めて、アナウンサーのようにとても上手なのです。タイミングを見計らい、全体に気を配る様子に、全校を仕切る意気込みを感じました。また、各学年の出し物にもとても感激しました。リコーダー演奏や歌、ソーラン節の演技等、とても素晴らしいものでした。内容はもちろんのこと、私が一番感激したのは、子どもたちの動きや表情です。指揮者が手を振り上げた瞬間に一斉に足を開く、声の強弱や息遣いで会場を一つにしてしまう歌声、最高学年のかっこよさを見せてくれたソーラン節の真剣な眼差し。このような姿は心が揃っていなければできることではありません。中丸小の子どもたちが、いかに真面目にひたむきに物事に取り組む子どもたちであるか、ということを見せつけられました。コロナ禍の３年間を吹き飛ばすような子どもたちのひたむきな姿に、熱く込み上げてくるものがありました。そして、このような上学年のひたむきで一生懸命な姿に憧れをもち、下学年がまた「自分もそうなりたい。」とバトンが引き継がれているのだと実感しました。

５月下旬には、４年生の上郷体験学習がありました。子どもたちは、「みんなとかがやけ！上郷へレッツゴー！！」のめあてを意識しながら張り切って活動していました。一日目、八景島シーパラダイスでポイントに立っていたのですが、どのグループも全員揃ってポイントチェックの報告に来ました。しかも、グループの仲がとても良い。「大丈夫？みんな揃ってる？」「次は〇〇に行ってみない？」等、交わす言葉がとても優しいのです。互いを気に掛け、目配り心配りをしていました。また、バスが上郷に到着し、駐車場から１０８段の階段を上った時のことです。私は衣装ケースを２個持っていたのですが、あまりの重さに途中で何度も足を止めてしまったのです。すると前後にいた男の子たちが、「副校長先生、僕がリュック持ってあげるよ。」と私の小リュックを持ってくれ、もう一人の子は衣装ケースを一緒に持ってくれました。自分も大きなリュックを持っているのに、私を助けようと手伝ってくれたのです。１０８段登り切った時は一緒に「やったー。」と言いました。階段を上るだけでも大変なのに、困っている相手にそっと手を差し伸べることができる、私はこういう瞬間に子どもの「生きる力」を実感します。人とどのようにつながっていけばよいか、困難をどのように乗り越えるか、そのことを中丸小の子どもたちの姿から見ることができました。

青空の子どもたちのひたむきな姿は、地域・保護者の皆様、そして教職員の思いのもとにあるのだと思います。５２年間、脈々と受け継がれてきた素晴らしい子どもたちの姿が、６年生のリードの元、今年度もさらに輝きを増し、一人ひとりが活躍できるよう見守っていきたいと思います。１年間、どうぞよろしくお願いいたします。